

# つながりの輪を広げて

～幼保小中連携と地域との協働の推進～

【光市 浅江中学校区】

## 地域の概要

浅江地域では、公民館を事務局とする「浅江地区コミュニティ協議会」が地域活性化の中核を担い、活力あるまちづくりのための様々な事業を展開しています。その原動力は多くの地域リーダーであり、あらゆる行事の企画・運営に

人口	15,009人	
世帯数	6,617世帯	
対象校及び児童生徒数	浅江中学校	333人
	浅江小学校	738人

携わっています。地域リーダーは、地域の行事はもちろんのこと、学校行事等の教育活動やその運営にも積極的にかかわるとともに、社会教育担当の教員は、地区コミュニティの組織に属し、地域の行事に積極的に参画するなど、互惠性を深める関係にあります。

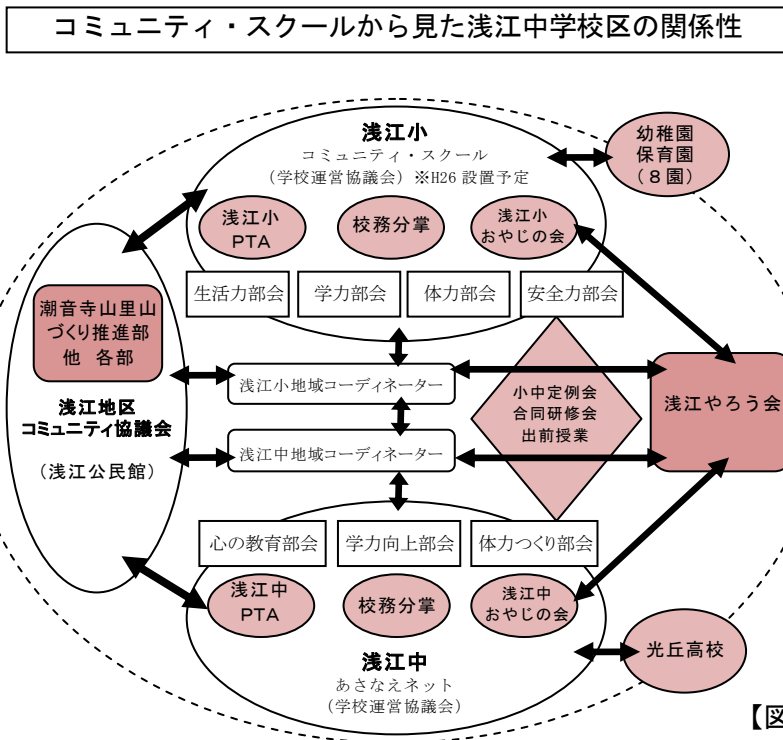
## 組織の内容

本中学校区では、浅江中学校が平成21年度から文部科学省の調査研究指定を受け、その後、「あさなえネット」として光市最初の指定校となり、先進的にコミュニティ・スクールの事業を展開しています。

一方、浅江小学校は、平成26年度からの指定に向け、2年間の準備期間を設け、「あさなえネット」を参考にするとともに学校支援地域本部事業を活用しながら準備を進めてきました。

浅江小学校には、長年、教育活動を支援してきたボランティア団体の存在や「浅江地区コミュニティ協議会」との既存の共催事業等が多くあり、それらを強みと考え、組織づくりや活動の創出に生かしています。また、小学校就学前後と中学校進学前後に接続期があり、6年間の年齢差のある児童が在籍する小学校においては、12年間の子どもの育ちと学びを見通した教育を展開し、生きる力を育てていくことが重要となることから、小中連携や幼保小連携を強化しつつ、コミュニティ・スクールの取組とリンクさせ、連携・協働の教育をより一層推進しているところです。

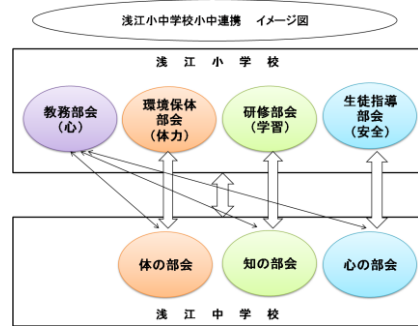
【図1】は、その組織構造と関係性を示したものです。



## 特色・重点的な取組

取組の力点と浅江らしさは、組織づくりにあります。自治会数や人口の多い地域であり、大規模小・中学校であることから、既存の各組織をリンクさせ、互恵性の3つの視点を大切に、それぞれのもつ機能を活性化させることをめざしています。

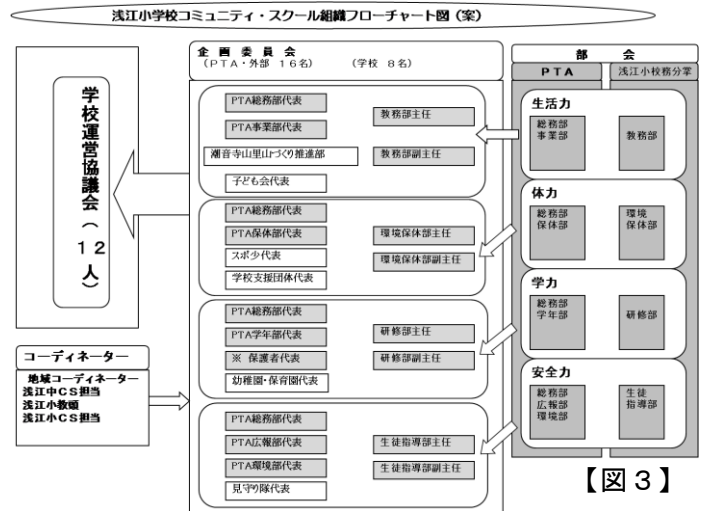
- (1) 小中連携…先行する中学校のコミュニティ・スクール組織と追随する小学校のコミュニティ・スクール組織をリンクさせ、学校運営面で連携・協働を活性化すること



【図2】

【図2】

- (2) 校内連携…小中両校ともコミュニティ・スクール組織と校務分掌組織をリンクさせ学校運営の一体感をもたせたこと



【図3】

- (3) PTAの参画…小学校においてコミュニティ・スクール準備委員会段階からPTA役員が多く参画し、PTA組織とリンクさせていること

## 主な活動の紹介

小学校水泳教室に、中学生とともに地域や保護者から水泳の達人を指導者として招へいしたこと、掃除やサマースクール（算数）の指導者として小学校に中学生を招いたこと、小学校教員が指導助言者として招へいされた保育園の造形教育の研修に1年生担任が参加し、合同研修を行ったことなど、各部会からの提案により新たな取組を行いました。



【体力部会】水泳教室で、中学生、地域住民、保護者が指導者として協力



【生活力部会】中学生が小学生に、掃除の手順や床の磨き方などを伝授



【保小合同研修】造形教育を通して、子どもの発達の特性や支援方法を学ぶ

## 成果と課題

就学前後と進学前後を接続期とし、6年間をかけて学ぶ小学校では、子どもの成長の見通しにおいて「縦のつながり」が重要であり、また、子どもがかかわり合う人や社会には「横のつながり」の幅広さや選択肢が多いことに気付くことができたことが何よりの成果でした。キーワードである「つながり」を強め、広げ、地域協育ネットを形成するにあたって、学校運営の理念と主体性をより明確にしていくことを忘れてはならないと考えています。

## 今後の取組

小学校がコミュニティ・スクール指定となる平成26年度は、当面、コミュニティ・スクール組織とPTA組織、校務分掌が協働を通して一体化していくことに力点を置きたいと考えています。